施策評価シート（令和７年度実績）

施策名　９　安心できる地域医療体制を構築する

施策コード	020009

１．施策の体系と担当課

第5次総合計画	将来像	2 誰もが地域で健やかに ともに支え合うまち
主管課	健康福祉部　健康推進課	
関係課		

２．施策の目標

10年後の目標

市立貝塚病院を中心として、地域の医療機関の連携が確保され、救急医療を含め市民が安心して医療を受けることができる地域医療体制が構築されています。

10年後の目標に向かっての主な取組み

市の取組み

〇市立貝塚病院の強みを生かし、がん診療における医療機能の充実に取り組みます。
〇市立貝塚病院と地域医療機関との連携強化を進め、市民が安心できる地域医療体制の構築に取り組みます。
〇市民公開講座や乳がん自己検診出張出前講座など、市民に開かれた啓発活動の充実を図ります。
〇公立病院に求められる災害医療役割を適切に果たします。

市民・団体・事業所等の取組み

〇安易に救急外来を受診することがないよう、適正な医療機関の受診を心がけます。
〇地域医療機関は、市立貝塚病院などと連携した医療提供に取り組みます。

３．施策を取り巻く状況

社会環境や法令等の変化

高齢化が進行する中、地域包括ケアシステムの構築が求められており、市立貝塚病院においてもこれに向けた役割を担う必要がある。このような状況で、地域の中核病院である当院と地域医療機関の連携の強化が、今後の医療を取り巻く社会状況において、これまで以上に重要となる。

新たな市民ニーズ

医療技術の高度化に対応した質の高い「高度・先進医療」に加え、新型コロナウイルス感染症拡大時にみられた新興感染症等に対して、誰もが安心して医療を受けたいというニーズが高まっている。

４．施策にかかるコスト

			単位	R6予算	R6決算	R7予算	R7決算	R8予算
コストの内訳	投入人員	正職員数	人		0.42		0.38	
		会計年度任用職員数			0.0		0.0	
	人件費	直接人件費	千円		3,164		2,873	
		間接人件費			181		212	
	直接事業費			33,480	32,377	33,072	31,404	32,742
	間接事業費				29		22	
	フルコスト				35,751		34,511	
財源内訳	使用料及び手数料		千円	9,105	11,085	9,120	10,057	12,020
	国庫支出金							
	府支出金							
	市債							
	その他				0		0	
	一般財源１（＝フルコスト－特定財源）				24,666		24,454	
	一般財源２（＝直接事業費－特定財源）			24,375	21,292	23,952	21,347	20,722

備考

５.施策の成果指標							
成果指標1		救急搬送患者の市内搬送割合					
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
%	毎年度	40	増加	45.4	46.8	40	40
成果指標2		市立貝塚病院　紹介率					
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
%	毎年度	60	増加	60.6	69.2	58.4	60
成果指標3							
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向				

６．施策を構成する事務事業ごとの評価結果（令和7年度実績）									
事務事業名	最重要指標	事業費 人件費				方向性		所　見	
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度(見込)				
救急医療事業 （健推）	R7実績	41,455	32,377	31,404	32,742	成果	評価対象外		
	最終目標値に対する達成率	3,703	3,345	3,085	0	資源配分			

７．施策の事後評価	
施策指標の分析（達成状況）	達成
構成事務事業に課題はないか	特になし
実施主体（国・府や地域・事業所などとの役割分担）に課題はないか	特になし

８．今後の方向性	
担当部長の所見	市民が安心して医療を受けることができるよう、市立貝塚病院を中心として、地域で役割・機能をもった医療機関の連携を図り、切れ目のない医療を受けることができるネットワークの構築に取り組む。
担当副市長の意見	市立貝塚病院を取り巻く環境が大きく変化する中、地域の中核病院である当院と地域医療機関の連携強化に努めるだけでなく、当院の役割、在り方について議論を進める必要がある。